

# 道心

編集 日光山 禅昌寺「道心」編集室  
発行 平成15年7月15日  
〒732-0002 広島市東区戸坂山根3-2-7  
☎ 082-229-0618 zenshoji@bronze.ocn.ne.jp



暑中お見舞い申し上げます

山主 横山 正賢

## 生かされて生きて生きる

# 「経世済民」

「世のしくみ 民をすくう」と読む、これが「経済」の原点であると、経営コンサルタント塾を主宰されていた、故宮沢辰三先生から教わった。先生は日本の統計学の先駆者と言われた上野陽一先生の愛弟子であられた。

上野先生は「経営学・経済学の原点は般若心経にある」と述べておられたと聴いている。宮沢辰

三先生は、当時曹洞宗管長であられた高階瓏仙禅師に帰依されたお方で、経済活動の原点は「正法眼蔵にある」と述べておられた。昭和三十年代後半から四十年代中頃まで、東京自由が丘のご自宅で、毎月第二日曜日に経営講座を開講されていた、塾生は日本の大手企業の管理職、経営コンサルタントの方々であつた。

講義の教本に宗門の「修証義」が使われていた。私は「経営の立場から聖典をどの様に解釈されるのか」大変興味があつて、時々参加させていた。

先生はお経(きやう)を扱ひ所としない政治・経済活動は退廃を招くおそれがあることを強調しておられたことが印象的で、それから四十年近く経過した現代の世相への警鐘であつたように思う。

経(しき)とは譬えていうと、布を織るとき縦糸を扱ひ所として、横糸を織り込んでゆく時の縦糸である。また地球の位置を表す東西の座標を経度という縦の線を扱ひ所として、緯度という横線を南北の座標として位置を知ることが出来る、その基本である経線にあたる。

日本はいま戦中戦後の物質的貧困と戦後復興にあつて、政治・経済・教育・家庭などあらゆる分野で数字とか、形とか、美しさとか目に見える具現化に価値観の座標をおいてきたことが、現代の退廃を招いたのではなからうかと思ふ。

ここに言う「経世済民」という「経」が価値観の変化によってその座標が変化流動するようなも

のであつては、時代の変化と共にいよいよ迷路に迷い込むようなものである。現代日本の現況はこの「迷路」に迷い込んだ状況にあることを自覚すべきだと思ふ。

「世のしくみ 民をすくう」という経済活動の原点は何かを考える時だと思ふ。何れにしても「経」の基本は各家庭にあると思ふ、この家庭は何を扱ひ所に築くかではなからうか。

昭和の戦前戦中の国策は「生めよ増やせよ」の合い言葉で子沢山の家庭が表彰されたりした時代があつた。その国策の是非は別として、言えることは、家計が苦しい、自分流に生きる、だから子供は産めない、などと考える事も許されなかつた時代に、産み落とされた人々が四十年代を迎えた時、日本はアメリカと並ぶ経済大国になつた。

この時代の人々は、子供は国の宝と言われ、悪いことはするな、ものを大事にしろ、ひもじくても我慢しろ、恥をかくな、人に笑われるな、助け合つて生きろと教えられて育つた。

戦後二十年代に生まれた人々は、戦災復興、経済発展激戦の中で偏差値至上・物質至上の価値観の中で、合理的・効率化等といわれる中で、計画出産と言ふことまで真顔で言われる時代となり、生まれることも死ぬことも人為的にコントロール出来る科学が進んだ。結果として自然破壊も含めて少子高齢化社会を生み出したのではないだろうか。

この事を国民総ぐるみで猛省し三十年四十年後の世相が健全な形で成り立つ「経世済民」「世のしくみ 民をすくう」の道理を学ばなければならぬと思ふ。

春の章 第5話



# 親と子は同い年。

子供の“信“に応える親になつてください。

愛知専門尼僧堂堂頭 青山 俊董

「孫は可愛い。文句なしに可愛い。しかし、どんなに可愛がつても、お母さんにはかないません。孫に必要なお金をみんな出してやると言つたつて、そんなこと通用しませんワ。どんなに泣いていても、お母さんの顔見れば泣きやむし、同じ泣き方でも、私に抱かれて泣くのとお母さんに抱かれて泣くのと、泣き方まで違う。子供にとつて母親は、それほど偉大な存在なんですわ」  
 屋下がりの無量寺。お茶のお稽古(表千家)を始める前の、ちよつとした世間話の時間でした。

長いお付き合いの老夫婦が何かのはずみで、お孫さんの話をしてくださつたのです。どんなに自分達が可愛がつても、孫の目はいつもそのお母さんに向かつていることへの微笑ましい“ぼやき”かしら、と最初は思いました。しかし、それだけではなかつたのです。

## ◆産めば親になれるわけではない

「最近の女性の多くが職場に進出して、男性を凌ぐ仕事をしてくれるのは結構だけれど、子育て

や、子の育つ場として家庭が犠牲になつてはならないと思つてます。いや、中には、子育てや家庭の煩わしさから逃れるための職場であつたり、お姑さんと顔を突き合わせているのはかなわんからという理由や、自己満足や小遣い欲しさから勤めに出ている人も多いようですよ。」

どこか寂しさを漂わせながら語るおじいさんの言葉の一つ一つに深くうなずきながら、私は最近耳にした、保母さんの嘆きの言葉のいくつかを思い起こしていました。

零歳児、2歳児などの乳児を預かる心労は、産みの母に代われないだけによけい大変なものであるが、それはまだよいとして、預ける側の母親の姿勢に納得できないケースが多いと、保母さんはおつしやるのです。共働きの家庭ならせめて一刻も早く帰り、一刻も早く迎えに来ようという姿勢が欲しい。休みぐらゐは自分の手元に置いて、普段ゆき届かない分を償うくらいな気持ちになつてほしい。

ところが、やつかい者を預けたとばかりに、勤めから帰つても迎えに来ないで、一時間でも多く預けておいて、自分のしたいことをしようとする。連休なども、たとえば、1日ぐらゐ預けてと思つと、3日の連休なら3日も預けに来て、自分は何をしているかというところ、遊び“を楽しんでいる、などというお母さんが多くなつたと。そして、こう付け加えました。

「産めば親になれるというもんじゃありません。動物だつて自分の命をかけても、子を守り育てます。”手塩にかけて“という言葉がありますけど、子育てのためにどれだけ惜しみない努力が払われたか。そのことを通して親子の絆も育てられ、深められるものだと思います。」若い保母さんではあ

りましたが、幼な子に代わって切なる願いを込めたこの一言は、先のおじいさんの言葉とともに、何としてもお母さん方の心の奥深くまで届けねばならないと思つたことでした。

### ◆ 子供の信に応える親に

また私が出家して間もない頃、「親と子は同い年(同じ年)」という言葉聞いて「えっ？」と思ひ、ずいぶん経つてから、「あつそうか」と納得したことを記憶しております。

子供が生まれなければ親にはなれないものです。子供が生まれると同時に、親も誕生するのです。子供も零歳なら親も零歳。子供と一緒に年齢を重ねてゆくものです。一日一日と目を見るほどの勢いで子供が成長してゆくように、親も成長してゆかねば、やがて追い抜かれます。子供の信に應えうる親になるためには、子供の成長とともに日に日に成長してゆくことを忘れてはならないと思うのです。

先日、教え子のひとりから、「育児は育自といったできました」という手紙をもらった時は、とても嬉しかったです。子育てをすることとは、自分自身を育てることだと、彼女は気づいてくれたのですから。

いま、まさに幼児虐待が問題になっています。厚生省が調べただけでも、全国の児童相談所で受け付けた虐待の件数は、平成2年で約一千一〇〇件、それが平成9年には約五千四〇〇件。7年間で5倍にも増えているのです。

幼な子を虐待する親たちの多くは、「しつけのつもりだった」と、弁明しているようですがそれでも、それは違います。

”ウソをウソと言ひ、ホントをホントと言える——言葉の真実”を追い続けたジャーナリストのむのたけじさんが、

「大人が学べば、子供も学ぶ。大人が学ぶということが、子供をしつけるという動詞なのだ」とおっしゃっているように、親自身が変わるうとしないので、子供だけを変えよう、躰けようとする

ば、それは”折檻”や”虐待”に直結しがちです。東井義雄先生の言葉に、

「子供こそ 大人の親ぞ」という言葉があります。親を親として、また一人

の人間として育てあげてくれるのは子供、たということです。

### ◆ ”育自”に家族の協力を

幼な子のひたむきな信の前に懺悔し、父親としての姿勢を正した人もおります。大正時代に、牧歌的・人道的な詩で人々に親しまれた群馬県出身の山村暮鳥という人です。

暮鳥の詩の中で私の好きな詩にこんながあります。

ある時

よくよく見ると

その瞳の中には  
黄金の小さな阿弥陀様が

ちらちらうつつているようだ

玲子よ 千草よ

とうちゃん

呼んでくれるか

自分は恥じる

信じて疑うことを知らないその澄んだ瞳を向けて、”父ちゃん”と呼んでくれる。”母ちゃん”と呼んでくれる。その瞳を、その呼び声をまつすぐに受け止め、自信を持つて”ハイ”と答えることができる父ちゃんでありえたか？母ちゃんでありえたか？

子供を鑑として自らの生き方をかえりみる時、親として、人として、落第でしかない私がそこに居る。我が子の前に”勘弁してくれ”と詫び、しかならぬ”この子の信に應えうる親にならなければならぬ”と、子の前に姿勢を立て直し、立て直し、生きようとする。そういう人こそ、親らしき親になれる人ではないでしょうか。そういう親の元にあつて初めて、良き子も育つというものではないでしょうか。

そして、子育てにかかわるのは、お父さん、お母さんだけではありません。最初にお話した老夫婦といった、家族の方々の役割も重要です。真剣に子育てをしようと思えば思うほど、親はストレスをためがちです。これは今も昔も変わりませぬ。

しかし昔は、相談相手になったり、手助けしたりしてくれるおじいちゃん、おばあちゃんとか近所のおばさんがいましたが、いまは核家族化が進んで、そういう人が少なくなりました。どうか家族の皆様も、お父さん、お母さんの”育自と、育自のよき協力者となつてあげてください。

よき”育自”と”育自”によつて、いまの混乱した日本も、必ずよくなります。

※(本文は、青山俊童尼老師著

「悲しみはあした花咲く」光文社より  
抜粋したものです。)

# 禅センターと カリフォルニアを巡る旅

团长 東区 斎藤昭夫



”広いなー”どこまでも果てしなく続く砂漠、ネバダ州の砂漠である。フレズノ空港を出発してから一時間、時速八〇〇キロとしても広島東京間の距離である。この間何もない砂漠である。眼下に一直線にのびる一筋の線、おそらく道のように。こんな何も無い所で、もし車が故障したらどうするのだろうか？と余計なことを考えながらラスベガスに向う。

四日前に、ジイサン、バアサン（本人は若いつもりでも世間一般ではこのように言う）、そうでもない人が約一人から二人はいたが十六名広島を後にした。このジイサン、バアサンの一行が、これから不夜城と言われるラスベガスでショーを見たり、博打場を見て廻るのだから空恐ろしい時代になったものである。アメリカ入国時においても、SARSとテロの関係か、入国審査場もガラガラの状態であった。海外に行くときに、この入国審査が一番に緊張する時である。

”团长さーん、前行つてー！！”皆私の後につきたがる！ 团长さーん！と言われども、团长さーん！もアメリカは初めてなのである。審査官も手持ち無沙汰なのか一人一人にジョークを飛ばし、「ユー、マイ、ワイフ？」後を見たら青笹さんがニヤニヤしている、「オー、ノオノオ」。小枝原さんのお母さんに至っては「ユー、ジャパニーズ？ チャイニーズ？」お母さん大慌て、「アイ、ドント、ノー」の連発、審査官はジョークのつもりでも、当方としては冷や汗ものである。旅費を安く上げる為にアメリカ入国までは個人旅行になっていたもので、多少面倒なこともあったが全員無事関門突破、泰賢さんの出迎えを受け一気に緊張がとけやれやれ。

専用バスでサンフランシスコ禅センター参拝後、泰賢さんの勤務先でもある桑港寺内の曹洞宗国際センターを拝見、仕事の内容等をお聞きするにつけ「早く日本に帰って来なさい」とは言いがたい位に仕事に情熱を燃やしている姿に感動し、俺もあの頃になんかに情熱を燃やしていた頃があつたつけないかと、遠い日の自分を見たようで胸に熱いものが込み上げるものを禁じえなかつた。

翌日よりナパバレ、ヨセミテ、冒頭に書いたラスベガス、グランドキャニオン、とスケジュール通りに観光を終え、最終日に国際布教総監部・秋葉総監に息子が御世話になってることへの謝辞、早く帰してもらおうにつけての早急の後継者の育成への要請、また自分の信念を切々と語る住職の胸の内にはおそろしく厳しく睨けたつもりが、多感な頃にはその厳しさゆえに反発した息子が、アメリカに来た頃には言葉も良く通じず疎外感を感じながらの苦勞もあつたらうに、ここまで立派に育つてくれて俺は間違っていないかつたと人生の至福の一時ではなかつたらうか……親子でいいな、人間でいいな、仲良き事はいいなーと感じながらのアメリカ旅行でした。

## 総括

私も海外旅行は通算20数回出かけておりますが、アメリカはすべてが初めてで、今回参加された方々は、一部を除いて皆70歳から80歳近い年齢で、病氣も怪我もなく、全員無事帰国できたことは何よりでした。

最後に言葉も分からない者達を一週間も案内して頂いた泰賢さんに一同を代表して感謝を申し上げます。

## 追記

今回参加した理事の雑談として、宗門発展のために曹洞宗国際センターで努力した経験を帰国後も活かす方法、手段はないものかと話があつたことを追記としました。

私の意識の中に「アメリカと云う国」は、9才の頃から今日まで六十数年間、先の第2次世界大戦・戦後復興・制度改革・技術革新・経済面・文化面で、大きく影響を受けてきた国であるので、一見したいとの思いがあった。

私の意識の中に「アメリカと云う国」は、9才の頃から今日まで六十数年間、先の第2次世界大戦・戦後復興・制度改革・技術革新・経済面・文化面で、大きく影響を受けてきた国であるので、一見したいとの思いがあった。

一場面を思い出した。初体験・どきどき・懸命の8日間、楽しい思い出の中に、深く印象を受けた旅だった。この度の旅行を企画・案内して戴いた、方丈さん・泰賢副住職さんと、同行の皆様にご感謝を申し上げます。合掌。

# アメリカと云う国の印象

安佐北区 茅原 愿

着陸して最初に意識したのは、星条旗である。サンフランシスコシティホールの前庭に、星条旗とカリフォルニア州旗が7・8本、並んで翻っていたのが印象的だった。市内でも至る所で星条旗を見かけた。

アメリカ合衆国統合のシンボルとして国民に意識させ、常に統合と愛国心を呼びかけているようだ。国土の大きさではカリフォルニア州の面積だけで四十一万平方メートル（日本の国土面積の1.1倍）国情の違いは歴然としている。サンフランシスコ禅センターとグリーンガルチ・ファーム（蒼龍禅寺）では、アメリカ人の僧侶（禅僧）が主宰す

地・ナババレー、世界的に有名なヨセミテとグラウンドキャニオンの両国立公園の、大自然の造形の美しさ・雄大な見とれ、驚きと「百聞一見に如かず」の感を覚えた。又、ラスベガスでは、現代的な人工都市のきらびやかさを目の当たりにし、アメリカン・ドリームの一隅を感じ、大柄の人（小錦級）の多いことに圧倒され乍ら、アニメ映画の「千と千尋の神隠し」の



# 米国禅寺巡りの旅を終えて

安佐南区 高瀬 正則

米国へのテロ攻撃への不安、世界を震撼させたSARS感染への恐怖、高齢故の健康面の不安などを乗り越え、勇敢な16名（男性6名、女性10名、平均年齢67歳）の禅昌寺ご住職及び檀信徒一行がサンフランシスコへ向けて2003年6月7日旅発った。

かばんの中へしまいかんだ。到着ロビーでは、今回の旅行で最も苦労頂いた泰賢さんにお迎え頂いた。

各空港での厳重な手荷物検査、靴まで脱がされてのX線ゲートの通過検査に不安よりも安心感を抱いた。SARS対策では、全員マスクを準備した。サンフランシスコ空港では大勢のアジア系旅客がいるということで全員マスクを手にして降り立った。空港到着ロビーまで距離は多量に閑散としていた。マスクをしていないものは誰もいない：手にしたマスクをそっと

今回の旅行目的である禅寺めぐりで、4ヶ所のお寺を廻り米国人禅道場を見学することが出来た。泰賢さんが毎日執務されている桑港寺内事務所へも案内していただいた。10年間米国各地での布教活動に従事され、現在ある泰賢さんに現地でも接し思ったことは、泰賢さんにとっても宗門にとっても米国で培われた人脈と布教の経験が今後有効に生かされていく道を作ることが、これから必要ではないかと感じました。禅昌寺の檀信徒の一人として、泰賢さんが任務を終えてお帰りになった後も、国際平和都市広島から実際の活動が出来る道が作れないものかと、晩餐の席で現北アメリカ国際布教総監（秋葉玄吾老師）へ我が思いを述べて帰りました。

# ◆道心・趣味の会◆

## 短歌

- まなかいの祇園の山は陽のかげり  
雲の中よりいかづち聞こゆる
- 真夏日の夫のみ墓にかくる水  
石にし染ますたちまちに消ゆ

東区 矢野淑子

## 俳句

- ほととぎす 遠峯は雨意の雲をたれ
- 青田風 物売の声 連れて来る

東区 河野 貞女

- 手のひらの 螢火皺を 透かしけり
- 両の手で 顔中飲ませる 岩清水
- 霧深きサンフランシスコは 坂の街
- はるか来て ネバタ雪溪 ま近にす

東区 青笹 俊枝

# ◆行事報告◆(四月～六月)

- 五月五日の極楽寺山登山、十六名の方が参加。
- 五月二十三日潮原温泉、ウッドワン美術館日帰り旅行三十五名が参加。

● 六月七日～八日間の「米国禅寺巡りとカルフォルニアの旅」十六名が参加。

# ◆行事案内◆(七月～十二月)

## ■毎週定例行事

- 暁天坐禅会 月曜日～金曜日 毎朝五時十分より五十分まで(十月から午前六時から四十分まで)
- 水曜坐禅会 午後七時より坐禅・茶話会 終了八時半
- 婦人坐禅会 毎週金曜日午後一時より坐禅・茶話会 終了三時
- (第一)金曜日のみ坐禅の後、写経、茶話会)
- ※八月中の坐禅会はお休みです。

## ■毎月定例行事

- 上田宗箇流茶道稽古日 毎月一回 第三金曜日を予定 午後二時から
- ※お抹茶と和菓子を気軽に楽しむつもりでご参加ください。(八月はお休みです。)
- 御詠歌の会
- 第二金曜日午前十時より自主練習
- 第四金曜日午前九時より講師を招いて練習 昼まで

◎茶道の稽古及び御詠歌の稽古は講師の都合で変更する場合があります。電話にてご確認ください。

# 四国八十八ヶ所 ご巡拝の旅(二泊二日)

- 日時 十一月十五日(土) から十六日(日)まで
- 行き先 四国八十八ヶ所・一番霊山寺から十二番焼山寺まで(徳島県)
- 集合場所時間 十五日午前七時・広島駅新幹線口を出発。
- 宿泊は六番安楽寺(天然温泉 薬)

## 師の湯

帰着は十六日午後九時広島駅新幹線口を予定。

- 参加費 一人二万二千元(納経帳・軸・白衣は別途必要)

◎旅行の参加申込み・お問い合わせは電話にてお願いいたします。(詳しいご案内をお送りします。)

〇八二二九一〇六一八

※申込み期限八月末日・定員四十名になりしだい締切。

## ●日曜坐禅会

- 第一日曜日 午前九時より坐禅・茶話会 終了十時半

## ■恒例行事

- お盆前諸堂掃除 七月二十七日(日) 午前九時半に集合、午前十時より開始
- お子さん、お孫さんご一緒にご奉仕ください。
- 昼食に「そーめん」を用意しております。
- 盂蘭盆会法要 八月六日(水) 午前十時半より法要・法話・会食 午後一時解散

※初盆の方は出来るだけご参加下さい。

- 青山俊重尼老師講演会 九月三十日(火) 午前十時半より

## ●月見演奏会「Tsukimi-in 寺

- 十月十一日(土) 午後六時半よりフルート・マンドリン・鼓弓のジョイントコンサート 演奏者 大代啓二先生他

※お詫びと訂正

道心第9号・俳句のコーナーに掲載しました、「東区 岡村竹畔」さんは「安佐北区 岡村竹畔」の誤りでした。大変ご無礼いたしました。

## 原稿募集

皆様の随筆、旅行記、体験談、趣味の短歌俳句など何でも結構です。お寄せ下さい。次号原稿締切は十月末日までお願いします。